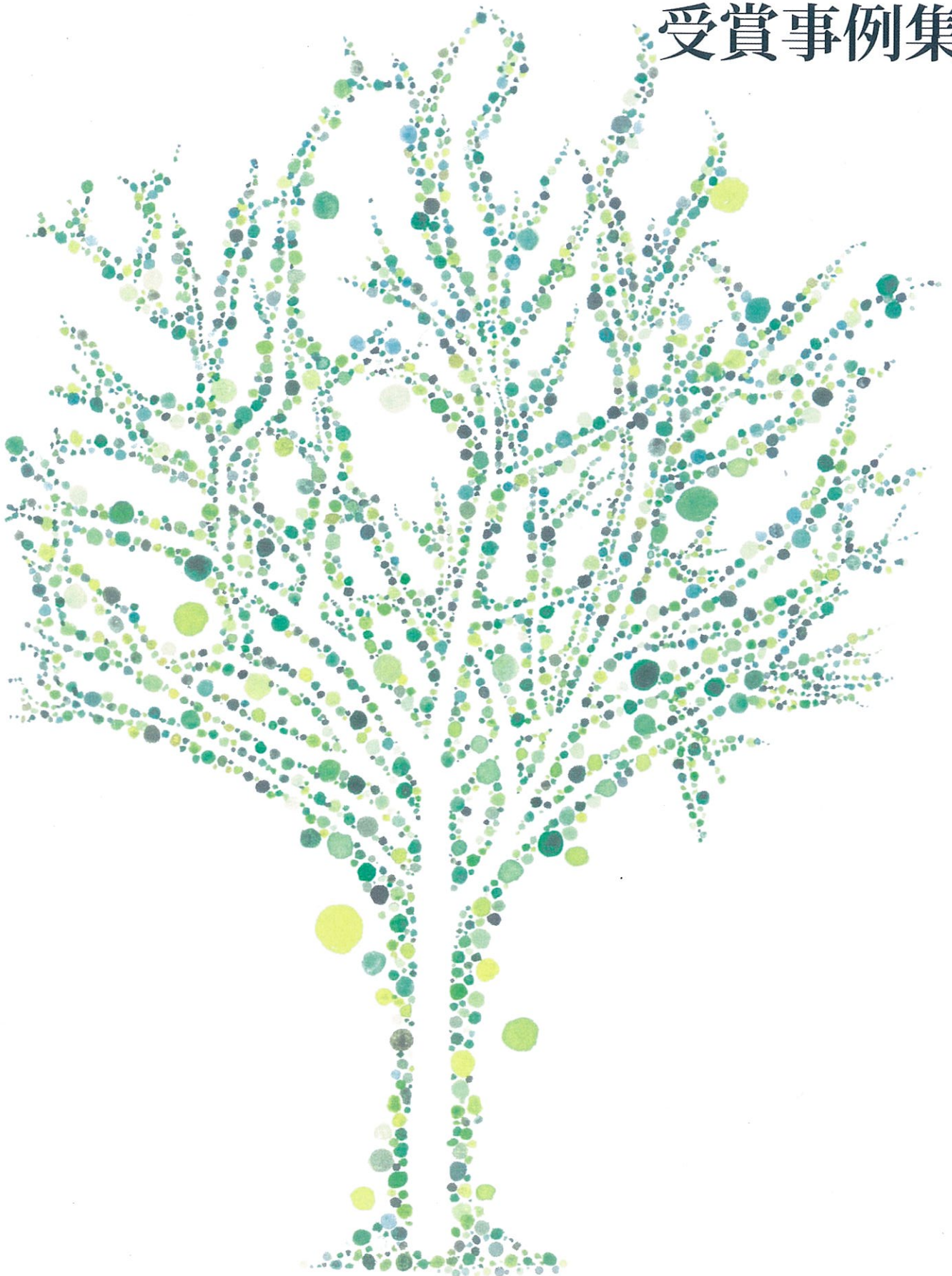


# 第5回 おおさか優良緑化賞

## 受賞事例集



## ■表彰の目的■

大阪府自然環境保全条例等に基づいて緑化がなされたもののうち、府内の都市環境の改善に特に貢献する緑化や建築物敷地内の魅力向上に資する緑化、新たな緑化手法のモデルとなる等の優れた取組みを顕彰することで、民間施設等において、より質の高い緑化を普及・推進することを目的としています。

## ■応募対象■

1,000㎡以上の敷地を有する施設で、大阪府自然環境保全条例第33条で緑化の義務が課せられたもの及び同第35条第3項に該当するもの、若しくは同第38条で規定する市域において緑化の義務が課せられたもののうち、顕彰実施年度の前5年度から前年度までに緑化が完了したもの  
(※平成18年度以降に限る。)

## ■ 総 評 ■

選考委員長 増田 昇

本年度も集合住宅を中心に教育施設や病院、事務所、工場等多岐に渡る24施設の応募があった。審査では、先ず、義務的緑化を除く緑量と公開性、緑化技術・管理の3指標から評価し、7施設を除く17施設について詳細な現地審査からの写真とコメント、応募資料を元に厳正に審査を進めた。

その結果、知事賞3施設と奨励賞4施設を選出した。知事賞3件の内2件は阪急京都線の摂津新駅前の再開発地区に建設された質の高い緑化が導入されている集合住宅、1件は芝生管理の行き届いた研修所と倉庫を併設した事務所である。奨励賞の内訳を見ると、2件が集合住宅、2件が事務所、その内の1施設は鳥類の中継地を意図して実のなる木やブドウによる壁面緑化が導入されており生物多様性賞を授与した。

本賞も5回目を数え、かなり定着した感がある。集合住宅に留まらず多岐に渡る施設から応募されており、いずれも充実した緑化が導入されている。本賞が大阪府内においてより質の高い充実した緑化を普及、推進させるための先導的役割をさらに発揮することを願っている。

### 「おおさか優良緑化賞」選考委員 ※50音順

嘉名 光市	大阪市立大学大学院 工学研究科 准教授
小林 宏之	株式会社産業経済新聞社 大阪本社編集局 大阪総局次長
弘本 由香里	大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所 特任研究員
増田 昇【委員長】	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授
宮前 保子【副委員長】	株式会社スペースビジョン 取締役所長

### 【表紙デザイン】

このパンフレットの表紙は、大阪芸術大学の協力を得て、学内コンペから選ばれたデザインを使用しています。

### (デザインコンセプト)

「絵のモチーフの基本形は、ただの丸ですがそれが沢山集まることによって新たなものを生み出す事が出来ます。自然も同じで緑を増やし創造することで広がっていくのを“一本の木”にまとめようと表現を試みました。」

大阪芸術大学デザイン学科 滝本 萌



## パークシティ南千里丘

所在地：摂津市南千里丘  
主用途：集合住宅  
建築主：三井不動産レジデンシャル株式会社

設計：(株)熊谷組  
鳳コンサルタント(株)環境デザイン研究所  
建築施工：(株)熊谷組  
造園施工：イビデングリーンテック(株)

### 講評

摂津市における大規模な再開発エリアに計画された集合住宅です。周辺のまちづくりとの一体的な都市計画が進められ、まち全体としても環境配慮の視点が重視されています。本施設においても、緑化の役割は多面的に考慮され、緑化空間の外部への開放、緑化による景観形成、緑を通じたコミュニティの形成、環境負荷低減など、環境時代に相応しい取り組みが進められています。特に外部と接する場所への高木の配置や、花、紅葉、食餌といった樹種も織り交ぜることで場所のシンボル性や季節感を演出し、新しいまちにシンボルや風景をつくろうとするパブリックへの意識が感じられます。

まちの成長とともに緑がどう成熟していくかが楽しみな取り組みです。

( 選考委員 嘉名 光市 )

外部へ開放された緑化空間



歩道沿いの高木



駐車場屋上の歩道沿いの緑化



地上部の緑化



建築物の外観



## フジテックBigFit

所在地：茨木市庄  
 主用途：事務所・研修所・倉庫  
 建築主：フジテック株式会社

設計：(株)昭和設計  
 建築施工：大成建設(株)  
 造園施工：(株)稲治造園工務所

### ■ 講 評 ■

エレベーターやエスカレーターのメーカーとして広く知られるフジテック。本社の府外移転に伴い2010年4月に旧本社から生まれ変わったのがこの施設です。茨木市東部の、阪急京都線やJR東海道線、名神高速などが近接するエリアに立地しています。

改築に伴ってやむなく伐採したクスノキでベンチを作り構内に配置するというアイデアや、駐車場に敷いた芝生が傷まないよう駐車位置のローテーションを行うというきめ細やかな配慮など、単に“植える”だけではない発想が委員に好感を与え、高評価につながりました。

当事業所の積極的な緑化の取り組みは、今も盛んに開発が進む周囲の住環境価値を高めるのに大きな役割を果たしているといえそうです。

( 選考委員 小林 宏之 )

シンボルツリーのヒマラヤスギとシマトネリコ



屋上部分の緑化



駐車場の芝生



沿道沿いの桜並木とヒベリカム



建築物の景観



## ユニエス南千里丘

所在地：摂津市南千里丘  
主用途：集合住宅  
建築主：株式会社 ユニチカエステート

設計：(株)都市建一級建築士事務所  
建築施工：(株)長谷工コーポレーション  
造園施工：(有)伊藤農園

### ■ 講 評 ■

本施設は阪急京都線の摂津新駅前の再開発地区の一画に建設されたシニア向け分譲マンションである。25%という高い緑化率の中で、2階テラス部分の緑化が特に充実しており、つる性植物に加え中低木、高木といった多層植栽が施され、存在感のある緑化となっている。さらに、菜園スペースも設けられており緑とのふれあい環境の創出も意図されている。1階部分は再開発地区の全体景観の形成を意図して、メインストリートに面する南西面に庭園風の多層植栽による緑化が導入されている他、サブルートに面する北東面に高木植栽、敷地内の車路にも芝生が導入されており、質の高い緑化が意図されている。ストリート景観の形成には植栽された高木の成長が待たれるところである。

(委員長 増田 昇)



屋上部の緑化



屋上の菜園スペース



メインストリートに面した庭園風緑化



施設内から見たの壁面緑化



建築物の外観

## 生物多様性賞

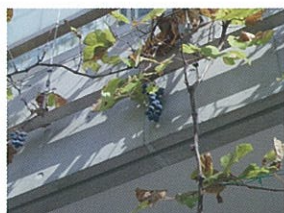
### 若井産業株式会社本社社屋



3階テラスの緑化



事務所入口付近の緑化



ブドウを用いた壁面緑化

所在地：東大阪市森河内西

主用途：事務所

建築主：若井産業株式会社

【設計】アートプラン建築事務所(株)

【建築施工】(株)熊谷組 【造園施工】(株)杉景

#### 講評

既成市街地に立地する事業所であるが、シラカシ、コナラなどの常緑高木や落葉高木を組み合わせ、四季の変化を感じさせる緑を街路に提供している。さらに、本施設の特筆すべき点は、3階テラス緑化とブドウを用いた壁面緑化にある。3階テラスは社員食堂の前面に位置しており、アジサイなどの低木や多種多様な草木の花で彩られ、ほっとできる憩いの空間をつくりだしている。また、ブドウは夏の日射をコントロールするのみならず、エディブル・ランドスケープの楽しみを提供している。このように、本施設は立体的な緑化を駆使することを通じて、都市の生き物たちにとっての小さなオアシスづくりを進めており、今後の生物多様性にも配慮した市街地緑化のモデルケースとなることが期待される。

(副委員長 宮前 保子)

## 選考委員会奨励賞

所在地：大阪市平野区平野元町

主用途：集合住宅

建築主：リバー産業株式会社

リバーホーム株式会社

【設計】(株)ジィ・アンド・エー建築設計

【建築施工】リバー建設(株)

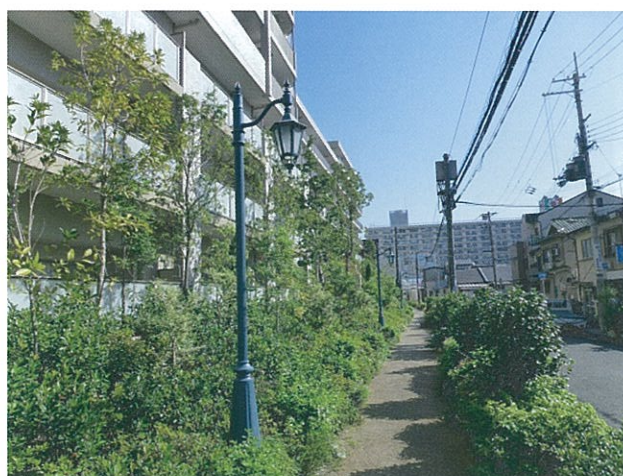
【造園施工】(株)松美園・(株)クリエイティブ阪急

#### 講評

鉄道駅前の市街地に立地する集合住宅であるが、南側ならびに西側の接道部に厚みのある緑化帯を設置して、府が定めた基準に対して174%の緑化を行っている。特に、樹高10メートルのクスノキを道路交差部のシンボルツリーにする他、シラカシ、マテバシイ、ソヨゴ、サンシュユなどの常緑高木を多用して緑のボリューム感を演出している。さらに、南側にはせせらぎ、西側には築山を設けるなど、変化に富んだ緑化計画となっている。チョウ等を誘引するために草花等の地被植物も植栽されており都市の生き物環境にも配慮している。本施設が、駅前地区の新たな緑のランドマークとして、地域住民や居住者の愛着の空間となることが期待される。

(副委員長 宮前 保子)

### リバーガーデン平野駅前ECOII



ボリューム感のある緑化



築山上の緑化



建築物西側の築山

## OPH南千里津雲台

所在地：吹田市津雲台  
 主用途：集合住宅  
 建築主：大阪府住宅供給公社

【設計】(株)ユーデーコンサルタンツ  
 【建築施工】長谷工グループ特定建設工事共同企業体  
 【造園施工】(株)日比谷アメニス

### 講評

本施設は千里ニュータウンの一角に位置していた大阪府住宅供給公社の建替えによって建設された賃貸マンションである。ボリュームが大きくなった住棟の圧迫軽減のために接道する外周部はすべて緑化されており、既存樹の保全も積極的に図られている。そこでは千里ニュータウンの風格ある風景が継承されているものの、新規の植緑部分では今後の樹木成長が待たれる。起伏のある中央広場は充実した新規植栽が施されており、広く開放された広場として、存在感とともに貴重な憩いの場となっている。立体駐車場の屋上にはセダム緑化が導入されている他、敷地の隅々まで充実した緑化が導入されている。

(委員長 増田 昇)



広く開放された広場



接道部の緑化



立体駐車場屋上のセダム緑化

## NTT新高津ビル

所在地：大阪市中央区  
 主用途：事務所等  
 建築主：西日本電信電話株式会社

【設計】(株)NTTファシリティーズ  
 【建築施工】(株)竹中工務店  
 【造園施工】(株)日比谷アメニス

### 講評

上町台地の一角、マンションやオフィスビルが林立する一方で、北側には古い長屋と路地が数多く残る低層の街並みが連なり、南東側には歴史ある寺々が建ち並ぶ界隈に、NTT新高津ビルは立地しています。長い都市居住文化の蓄積を物語る周辺環境に調和するように、建築と一体的に計画された、緑地の形状・スケール・樹種の選定等はよく吟味されており、既存の街並みや生活への敬意を表し、違和感なく心落ち着く界隈景観を生み出すことに成功しています。制約が多い中で、ピクセルポット型の壁面緑化や、適度なボリュームで圧迫感のない緑の丘による環境とセキュリティの両立、道すがら四季折々の植物の表情を楽しめる混植など、デザイン理念と技術の融合が高く評価できます。

(選考委員 弘本 由香里)



建築物の外観と地上部の緑化



緑の丘で挟まれた玄関口



施設内からの景観

# 委員所感

## ■嘉名委員■

都市における緑化の必要性や効果は、ヒートアイランド現象の緩和などの都市環境の改善、建築物内外の魅力向上、都市空間の質の向上など多面的に及ぶことがその特質といえるでしょう。とくに環境都市の時代にあつて、緑化の果たすべき役割や期待はますます高まっています。これからの時代に問われる緑化とは、単に緑量の確保という単純なものではなく、都市における各々の施設が都市の外部空間の使いこなしや景観、都市環境の改善といったテーマに積極的に関わりをもち、個々の取り組みが有機的に結びついて広がりながら、都市全体のパブリックに貢献していくという新しい時代の都市像にも直結しているように思います。

都市と緑の新しい関係を摸索すべき時代にあつて、新たな挑戦や試みがますます盛んになっていくことを期待しています。そして、価値ある取り組みを、おおさか優良緑化賞という場を通じて広く社会へ提示していくことが重要だと思います。

## ■小林委員■

審査対象となった物件は、いずれも個性的な工夫が凝らされ、自分の住まいの近くにあればいいな、と思うものが大半。そうした施設に優劣を付けるのは悩ましい限りでした。

選考の過程で議論にもなりましたが、気になったのは、現況のみを評価していいものかどうか、という点。現在はボリュームたっぷりのみどりが、数年後も維持されているのかがかりではありません。「応募時が最良の状態」ではなく、受賞施設が数年後、数十年後もみどりを維持しているかどうか検証する機会や仕組みがあれば、と感じました。

もう1点は、その緑化を周囲がどう受け止めているか。「よかれ」と思ってやっていることが、付近の住民から好感を持たれていなければ元も子もない。鳥や虫が集う環境の整備は、それ自体意味のあることですが、毎日そこに住む人誰もがそれをよしとするかは難しいところ。施工主の「独り善がり」の緑化にならないことを願うばかりです。

## ■弘本委員■

ストック活用時代へ、社会の大きな変化を物語るように、建替等に際して、周辺の街並みとの調和をどう考えていくか、あるいは既存樹をどう活かしていくかといった視点が、緑化デザインの重要な要素として扱われる事例が数多く見られました。また、人の心身の安らぎ、コミュニケーションやクオリティ・オブ・ライフと緑の関わり、地域環境・地球環境と緑の関わりといった関係性の視点が、具体的な技術や経験をともなって、新たなデザインやマネジメントのノウハウとして定着しつつある様子も感じ取ることができました。緑を媒体として、人と人との関係、人と環境との関係を調整していくことの重要性は、今後いっそう高まっていくことでしょう。こうした流れのなかで、建物と一体で緑化の計画・設計・マネジメントを持続的に行っていくことのできる職能ネットワークやシステムづくり、それを評価して活用するマーケットや地域・社会の力を育てていくことの大切さにも、改めて思い至る審査となりました。

## ■宮前委員■

応募された25施設はいずれも植栽デザインや緑化手法に工夫が感じられ、おおさかの施設緑化に関わる関係者各位の熱意が感じられる結果であった。そのなかでも本年度の特徴として3点あげることができる。第一には緑化率はほとんどが基準の120%以上と高得点であったこと、第二には接道率はほとんどが40%以上であったこと、第三には緑化技術の基準点をすべての応募施設が満たしていたことである。これらの諸点に加えて、導入された植物が多種多様になっているほか、屋上緑化や壁面緑化に独自の工夫がみられたことがおおさかの緑の豊かさにつながっている。本賞の受賞施設がきっかけとなって、周辺地域の緑化が益々豊かになっていくことを祈念している。